

■ Advance to the Future

株主のみなさまへ

第58期 株主通信

2017年12月21日 ▶ 2018年12月20日

 太洋工業株式会社
TAIYO

証券コード：6663

開発力や提案力を結集して、持続的成長に向けた基盤の確立を目指します。

— 当期の市場環境と決算について教えてください。

収益性重視の経営を追求し、主力事業が増収増益となりました。

2018年12月期連結決算では、医療機器及びスマートフォン向けなどの需要が総じて底堅かったことから、電子基板事業及び基板検査機事業ともに市場環境は堅調に推移しました。

売上高の約6割を占める電子基板事業においては、試作だけでなく量産までワンストップで対応する体制を整えたほか、高難度製品など収益性の高い案件で成果を上げることができました。また、外注に頼っていためっきなどの一部製造工程を内製化させたほか、量産製品で求められるUL規格*の取得範囲の拡充、業務の効率化を進め、収益性重視の経営に努めました。

基板検査機事業においては、社会的な品質管理要求の高まりやスマートフォンの製造ラインなどでより厳しい検査精度が求められたことから売上を伸ばし、過去最高の収益を確保しました。この他、鏡面研磨機事業においては、大型機案件の獲得など次期に向けて安定した受注を確保する結果となりました。

こうした取り組みの結果、2018年12月期連結決算で増収、営業黒字転換を果たすことができました。

— さらなる業績向上に向けた課題と取り組みを教えてください。

お客様の製品開発の企画段階から提案活動を積極的に展開していきます。

電子基板事業においては、デジタルカメラの試作が減少の一途をたどる中で、近年「脱デジタルカメラ」を進めてきました。開拓分野としては、医療機器、車載機器、IoTなどで、FPCの量産受注体制の強化に向けた委託先の確保も挙げられます。

また、技術革新が顕著になる中、ベンチャー企業や研究機関、個人のニーズを取り込むため、ウェブ上での見積り依頼システムを刷新し、引き合いの確保に努めています。こうした取り組みを通じて、次世代のビジネスの機会を発掘し、持続的成長につなげていく考えです。

自社技術の開発という面では、これまで「極薄FPC」や「テキスタイルFPC」などを公表してきました。2019年1月には新たにFPC自体が伸縮する機能を有した「高伸長FPC」を開発し、今後の市場として注目される生体情報取得用のウェアラブル電子機器や人型ロボット開発での需要を見込んでいます。当社としては、高難度のFPCを継続して開発する一方、お客様の製品開発の企画段階から提案活動を積極的に展開し、要素技術として採用されることを目指していきます。

— 2019年度の業績見通しはいかがでしょうか。

時代の先を見据えて需要の創出を積極的に行っていきます。

昨年末以降、米中貿易摩擦やスマートフォンの販売低迷などを受けて、電子部品市場が急激に落ち込んでいます。これらは2019年度の不安定要因として注視する必要がありますと考えています。その一方で、次世代通信規格(5G)向けデバイスの開発が今後活発になるものと見込まれます。

このように電子部品市場の方向性が定まらない中で、2019年度は市場の動向を慎重に見定め、収益性を重視した事業展開を継続していく考えです。中長期的には、「高伸長FPC」をはじめとする独自技術を強みとした提案活動を強化し、新たな市場の創出に向けて積極的にチャレンジし、さらなる成長の基盤としていきます。

企業価値の向上を通じて株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。つきましては引き続きご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

*UL規格とは…多様なものに対して規格適合試験を実施し、その安全性を確かめた上で規格適合認証を行うアメリカの非営利機関で制定された規格。

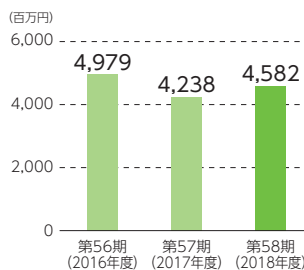
代表取締役社長

細江 美則

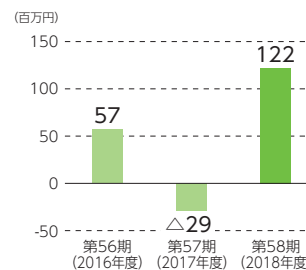


業績ハイライト

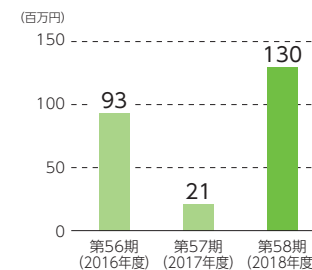
売上高



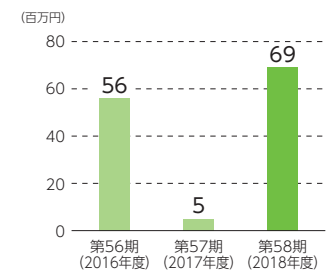
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



システムインテグレーションサービスの提供を開始

当社グループの提案力及び技術力により、生産ラインにおけるロボットシステムの構想・設計・導入から周辺設備までのトータルソリューションを提案する産業用ロボットのシステムインテグレーションサービスの提供を実現いたしました。



※出典：川崎重工業株式会社 双腕スカラロボットduAro(デュアロ)カタログ

チャリティーイベント「第一回和歌山サンタ☆ラン」への参加 ～闘病中の子どもたちにプレゼントを～

当社は、2018年12月9日に和歌山城で開催されたチャリティーイベント「第一回和歌山サンタ☆ラン」に協賛し、当社社員が参加しました。地元和歌山の地域社会の一員として、活気ある街づくり、人づくりを目指して積極的に取り組んでいます。

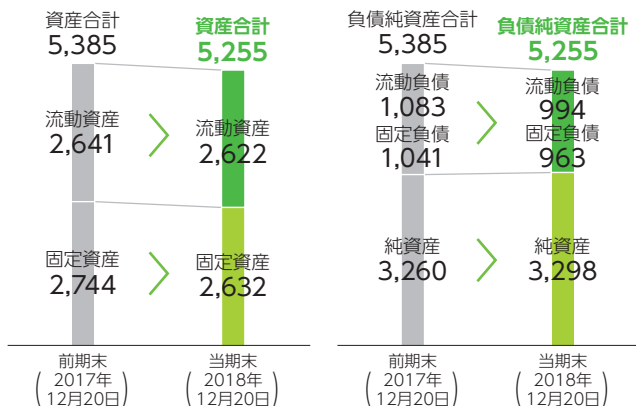


第59期(2019年度)連結業績予想

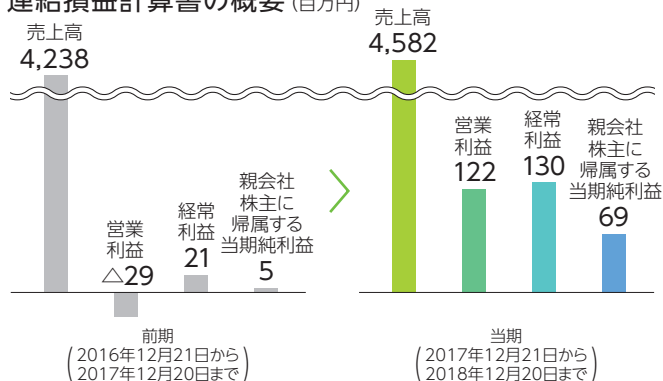
売上高	47億78百万円 (前年同期比 4.3%増)
営業利益	80百万円 (前年同期比 34.4%減)
経常利益	75百万円 (前年同期比 42.4%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	43百万円 (前年同期比 37.9%減)

連結財務諸表

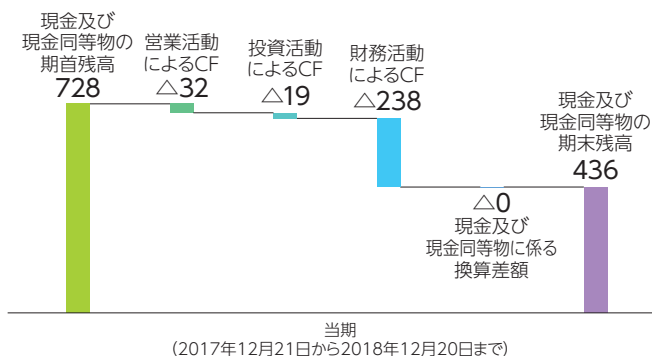
連結貸借対照表の概要 (百万円)



連結損益計算書の概要 (百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)



会社概要

(2018年12月20日現在)

社名	太洋工業株式会社
設立	1960年12月
代表者	代表取締役社長 細江 美則
資本金	800,757,000円
従業員	261名(連結ベース)
関連グループ会社	株式会社ミラック TAIYO TECHNOLEX (THAILAND) CO.,LTD. マイクロエンジニアリング株式会社 太友(上海)貿易有限公司

役員

(2019年3月19日現在)

代表取締役社長	細江 美則
取締役	坂田 吉啓
取締役	堀井 健司
取締役	上西 令子
常勤監査役	崎前 和夫
監査役	和中 修二
監査役	中川 利彦
執行役員	清原 旭
執行役員	田中 清孝
執行役員	水谷 浩

株式の概要

株式の状況

(2018年12月20日現在)

発行可能株式総数	23,280,000株
発行済株式の総数	5,872,000株
株主数	2,361名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社細江ホールディングス	1,600	27.3
細江 正大	480	8.2
細江 美則	465	7.9
紀陽興産株式会社	390	6.6
株式会社紀陽銀行	290	4.9
太洋工業従業員持株会	273	4.7
小川 由晃	124	2.1
旭東ホールディングス株式会社	102	1.8
前尾 和男	50	0.9
株式会社南都銀行	50	0.9
第一生命保険株式会社	50	0.9
日本生命保険相互会社	50	0.9

(注) 持株数は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示、また持株比率は、自己株式を控除して計算しており、小数第二位を四捨五入して表示しています。

株主メモ

事業年度	毎年12月21日から翌年12月20日まで
期末配当金受領株主確定日	毎年12月20日
中間配当金受領株主確定日	毎年 6月20日
定時株主総会	毎年 3月20日まで
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL(0120)094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ(スタンダード) (証券コード6663)
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.taiyo-xelcom.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

TAIYO INDUSTRIAL CO.,LTD.

〒640-8390 和歌山市有本661番地
TEL(073)431-6311(代) FAX(073)432-5469

